

教員名	齋川 貴嗣	所属学科	国際
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>このゼミでは、国際関係を文化の視点で見る方法を学びます。文化とは、一言で言えば、人類が自然と対峙しながら生きるために作り出してきた工夫の体系です。つまり、人間の生の営みそのものが文化と言えるでしょう。</p> <p>往々にして、国際社会や国際関係は国家という無機質な団体によって営まれているように見えますが、そもそも国家は人間が作り出したものであり、国際関係を動かしているのも具体的な個人や人の集団です。その意味で、国際関係そのものも文化の一つと見ることができます。このように、このゼミでは文化という視点から人の顔の見える国際関係を考えていきます。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>このゼミでは歴史的方法を重視します。文化が人間の生きるための工夫の積み重ねに関わるものである以上、長期的な歴史的、人類史的視野が不可欠であり、また歴史が研究の確固とした基盤を与えてくれるからです。ゼミを通して、具体的な研究テーマは参加者それぞれの問題意識や関心を踏まえつつ、それを歴史学的実証分析によって一つの学術論文（卒業論文）として仕上げるお手伝いを行います。</p> <p>具体的には、2年次から3年次にかけては、国際文化論の代表的文献を輪読し、国際関係を文化の視点で見る基本的な方法を学ぶと同時に、個々の参加者が関心を持っているテーマについて発表してもらいます。4年次は、それぞれ卒論に向けた研究を進め、適宜報告を行ってもらい、全員で議論します。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>グローバル化が進む現代では、将来海外で働くにせよ国内で働くにせよ、望むと望まざるとにかかわらず、異なる文化的・歴史的背景を持つ人々と一緒に仕事をするようになります。無論、英語をはじめとした外国語能力や経済学など専門的な知識・技術が大事であることは言うまでもありません。しかし、異なる文化や歴史への深い理解がなければ、表面的な付き合いに終始し、結局仕事もうまくいかないでしょう。その意味で、このゼミで学ぶことは、これからのグローバル社会を生き抜く基礎になると考えています。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。 渡辺靖『〈文化〉を捉え直す』岩波書店、2015年。</p>			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>軍事力や経済力が物を言う現在の国際社会において、文化の力はとても弱々しいものに見えます。しかし、短期的利益に目が眩んで視野狭窄に陥り、方向感覚を失っている現代において、長期的な人間の歴史的展望を考えることができるのは文化の最大の力であり魅力であると思います。こんな時代だからこそ文化に関心を持つ皆さんの参加をお待ちしています。</p>			